

和 6 年度 重点目標・達成指標と重点的取組・取組指標と学校関係者評価(第 1 回) 実施日 1月 15日(水) 【九重町立東飯田小学校

【教育目標】

確かな学力を備え、協働し自ら考え行動する児童の育成
～学ぼう・伝えよう・繋がろう～

【育成を目指す資質・能力】

- 相手や目的に応じた表現力
-
-

重点目標		達成指標	重点的取組	取組指標	評価者からの意見
知識及び技能の習得	基礎基本の知識と育成能力(学もばとう)にした課題解決能力の	国語・算数の単元テストの「知識・技能」の領域での標準期待値を超える児童の割合70%以上 国語 66、2% 1学期 69、9% 算数 69% 1学期 68、6%	学校 ○個に応じた少人数指導の実施 ○ドリルタイムの複数指導の実施	○全教職員での算数・国語の単元末に個に応じた少人数指導を実施する 100% (1学期75%) ○全教職員で週2回の朝ドリルの時間に、実態に応じ、ICTも活用した算数・国語の指導を実施する 90% (1学期87、5%)	・単元末の少人数指導の時間を確保するために学習計画や支援体制を見直し、どの学年でも実施することができた。 ・支援体制表を作成し、eライブラリ等ICT機器を活用したドリルタイムを複数体制で実施することができ、個に応じた指導ができた。 ・国語については、「知識・技能」の領域で1学期よりも低い結果となった。基礎学力の確実な定着を図る必要がある。 ・九重町の学力調査の結果を分析し、きめ細やかな指導の改善に生かす。 ・学習した漢字や語句、表現方法を日常の作文活動等で意識して使うよう繰り返し指導する。 ・児童の実態に応じて支援体制を見直す。
			家庭 ○家族読書の推進 ○静かな家庭学習時間の設定	○学期に1回ノーメディアデーを設定し、配信メールで周知し、家族で読書を行う 81、3% (1学期90%) ○ノーメディア週間では、1日1時間以上メディアを消す 85、9% (1学期86、7%)	・だんだんとノーメディアへの意識が低くなってきたのか？それとも慣れてきたように感じます。読書が大事なことは分かりますが、それが課題解決能力の育成につながるのか？と思うところはあります。それぞれ自分の課題、苦手な部分は違うように思うので、読書だけにこだわらなくてもいいような気はします。 ・ノーメディアではなく、逆に自分の好きなメディア、好きなことをみんなに紹介するような宿題があってもいいのでは？とも思います。現代の子どもたちにノーメディアはちょっと難しいのかもしれないですね。 ・全体的に取り組めているのが良いと思う。我が家では若干依存気味で、もう手放せない状態になっており、もうお手上げ状態なので正直ちゃんと取り組めたことはありません。きちんと取り組めているご家庭がすごいです。 ・家族読書は各家庭で定着してきた取り組みだと思います。 ・1学期よりパーセントは下がったが、できていると思う。
			地域 ○放課後チャレンジ教室での知識・技能習得	○公民館主事が毎週水曜日、公民館で行事体験や工作などを実施し、取り組む姿を通じ評価する。	・宝っこ夢フィールドという活動は、たくさんの学びができます。それは学校と違う環境の中で作り上げていくもの、季節を取り入れた体験、料理もします。体育館でキンボールもします。毎回違うメニューの中で各学年そろった子どもたちは笑い合い、考え合い、助け合い、たくさんの楽しみを習得できます。 ・子どもたちが家と学校以外で大人と交流する貴重な場である。知識・技能の習得はもちろんだが、地域の人と交流することで、つながりを大切にしてもらいたい。 ・夢フィールドは主に自分で作ることを目的としています。最初に作り方を教わり、見様見真似をしながら後は自分で考えながら作り上げますが、完成品を手にして喜んでもらえればありがたいです。嬉しそう顔を見るのも私たちは楽しみです。 ・いろんな体験を得ることができる。知識を得る。成長を見ることができる。
思考力、判断力、表現力の育成	自ら考える、育成(深め、相手・目的意識を持ち表現)	「ペア学習やグループ学習の中で、相手に伝えるように考えて、自分の考えを言うことができた」のアンケートで、児童の4評価60%以上 54% (3評価40%で、合わせて肯定的評価は94%)	学校 ○考えを伝える場の保障	○ペア学習やグループ学習の場を1日1回以上実施する 100% (1学期100%)	・考えを伝えあう場を全職員が意識して実施できた。 ・肯定的評価で見ると1学期より改善している。 ・国語については、「知識・技能」の領域で1学期よりも低い結果となった。基礎学力の確実な定着を図る必要がある。 ・九重町の学力調査の結果を分析し、きめ細やかな指導の改善に生かす。 ・学習した漢字や語句、表現方法を日常の作文活動等で意識して使うよう繰り返し指導する。 ・児童の実態に応じて支援体制を見直す。
			家庭 ○音読への意欲の向上	○保護者は、週1回以上子どもの音読に向き合って聞く時間を持つ 84、4% (1学期83、3%)	・少し上がっているのでもいいのではないかと思います。子どもたちが音読の大切さをどれくらい理解しているのか？音読だけにとらわれ過ぎではないでしょうか。 ・思ったのが、高学年になるにつれて聞く回数がめっきり減ったような気がします(我が家限定)全体的によくできていると思います。 ・文章を読む力がつくので、音読の取り組みは続けたほうが良い。 ・多くの人ができていると思う。取り組みを続けることと保護者の意識が大切と思う。
			地域 ○公民館活動での、児童の承認・認知の実施	○公民館主事が毎週水曜日、公民館での行事体験や工作などの活動で、スタッフに認知、賞賛の声かけをほしいし、アンケート調査を実施する。 ○札幌正しい言葉遣いの指導をするともに肯定的評価をする。	・声掛けで子どもたちはやる気を見せず。意欲的になってくると工夫を凝らし、立派な作品ができます。その時の表情がとてもいいです。授業に対しても(ここ)というポイントを見つけたらきつと学力が向上していくのでは…。ゲーム漬けになっている子どもたちが夢フィールドの活動に触れてほしいです。 ・活動スタッフには児童への認知・賞賛の声掛けを行ってもらっている。児童の自己表現(できたものを「見て」、分からないときに質問したり、家や学校での出来事を話してくれたり)が多くなってきたように感じる。 ・関係者とのつながり、仲間同士として付き合える。 ・何事にも積極的に取り組めるようにいろんな方面から見守っています。(多人数のスタッフで)ただ、最近ちょっと気になっていることは、説明をしているのに横を向いての雑談が多くなっているので今後の課題として考えていきたいと思っています。
学びに向かう力、人間性等の涵養	(自主的に行動し、他者との協働を図る態度の育成)	「学校や家庭で学習する内容を自分で考えて学習することができた」の児童アンケート(4年生以上)で、肯定的評価50%以上 84%	学校 ○児童を主体とした授業改善 ○高学年で自主学習に取り組む	○学期に1回以上協調学習に取り組む 88、9% (1学期62、5%) 月に1回自主学習を取り入れる 100% (1学期25%)	協調学習について ○全学年で取り組むことができている。 自主学習について ○子どもたちが楽しんで取り組んでいる。 ○ノートを掲示することで意欲が高まっている。 ○子どもと一緒に、ねらいをもう一度確認する。 ○児童アンケートの中に自主学習についての項目を入れ、学期末に振り返りを行う。
			家庭 ○家庭での学習習慣を定着させる	○家庭学習の時間を決めて取り組ませる 60、9% (1学期76、6%)	・習い事等で忙しい子どもたちは、時間を決めてするのは難しいのかもしれないですね。時間よりも中身が大切かと思います。 ・習い事とか家庭の事情などで意欲的に学習に取り組める時間の確保が難しいだろうなと思いました。宿題をするので精一杯で宿題をとりあえずやっておこうという感じでは？ ・「家庭学習イコール宿題」という家庭が多いと思う。学習の時間を決めて取り組ませるとするのは難しいように思う。子ども自身が時間を設定し、自ら取り組めるような宿題があってもいいかも？(自学とか) ・パーセントは低いが各家庭で学習できる時間にさせているのではないでしょか。
			地域 ○公民館活動で児童の主体的な活動の場を作る	○活動内容を児童とともに考える	・いろいろな場面で上級生が下級生のお世話をよくしている。仲の良い姿は子どもたちの少なくなった今、家族、兄弟、姉妹のように溶け込んでいます。つーだらだった祭りでのキッズマルシェは子どもたちが自ら考え行動し作り上げたもの。大成功でした。(楽しい)(またやってみたい)学校での集団生活から地域の中での協働、積極的に取り組んでいくと必ず得るものがありますね。 ・小学校保護者との実行委員会による「キッズアカデミー、キッズマルシェ」を開催した。子どもたちの自主性・主体性に重点を置き、できるだけ子どもたちのやりたいこと・したいことを行った。非常に意味のある取り組みだと思うので、今後も継続していきたい。 ・今後の活動の中でいかに集中力を高めってもらうためにもっと柔らかくもしっかりと導いていきたいと思っています。※最後に友だち同士がもう少し相談し合う場面も必要なかなあーそう思うときがたまにあります。もっと相談しやすい雰囲気作りが必要だと実感しています。 ・団体行動であり、お互いが尊重し合える。協力することで、目的を達成する喜びを見る。
働き方改革の推進	持続可能で働き場の創着のあ	毎月1日分以上年休をとる職員50%以上 38、9% (9月～11月)	学校 ○業務改善の推進	○毎月1回、運営委員会の中で労働安全衛生委員会を催し、超勤時間を把握する。毎月 ○月末に翌月の年休予定を立てる毎月	・年休が取れていない職員が固定化しているので、面談などを通してストレス過多とならないよう見守る。 ・3学期は成績処理や授業進度を意識することで、休みがとりにくいと感じることが多い。計画的に進めることを意識する。